

入場  
無料

白鷹町が生んだ戦没作曲家

# 紺野陽吉の音楽を伝え ともに楽しむ音楽会

2024年 10月12日(土)

開演 14:00 [開場 13:30]

会場：白鷹町文化交流センター あゆーむ AYU:M  
山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝7331

要申込

下記まで  
お申し込みください

## プログラム

ビデオ  
上映

YBC ニュースエブリィ・シリーズ 戦争の語り部たち  
「戦没作曲家・紺野陽吉」 2018年8月15日放送

演奏

駒込 綾 (ヴァイオリン) & 小関 佳宏 (ギター)

紺野陽吉愛用の  
ヴァイオリンと  
ギター使用

作曲/紺野陽吉 編曲/小関佳宏

1. 弦楽二重奏曲より

ナルシソ・イエベス

4. 禁じられた遊び

越谷達之介

2. 初恋

山形県民の歌

5. 最上川

作曲/葉加瀬太郎 編曲/小関佳宏

3. 情熱大陸

6. その他

お申込

お電話で→ TEL.0238-85-9071

スマホ  
タブレットで →



切

10/11(金)  
17:00まで



# 戦没作曲家・紺野陽吉と

## このコンサートについて

紺野陽吉は1913年(大正2年)、白鷹町畔藤の紺野医院の次男に生まれました。生家は空き地のまま今も残っています。長井中学(現長井高校)を卒業して上京。ヴァイオリンを購入して医学よりも大好きな音楽の道に進みます。ただ、紺野が東京でどんな生活をし、誰に就いて音楽の勉強をしたのか、2つのアマチュア楽団で第2ヴァイオリンを弾いていたこと以外分かっていません。

1941年(昭和16年)太平洋戦争が始まり、紺野陽吉も召集を受けます。戦地に赴く時、それまでに作曲した3曲の楽譜(弦楽二重奏曲、弦楽三重奏曲、木管三重奏曲)を、当時の有名な作曲家清瀬保二(きよせやすじ)に預けます。

敗戦の年1945年(昭和20年)10月に、紺野陽吉は旧満州(現中国東部)の収容所内病院で病死します。それから50年を経た1995年(平成7年)、小宮多美江さんという音楽評論家が、清瀬保二の死後、彼の作品調査をしている時、資料の中から偶然「紺野陽吉君遺稿(死後に残された原稿)」と書かれた大きめの封筒を発見します。中には紺野作曲の3曲の楽譜が入っていました。これが、故郷の人でも誰一人知らなかった作曲家としての紺野陽吉の存在が明らかになった瞬間なのです。

紺野陽吉は、戦争で亡くなった作曲家として全国的にその作品が演奏されている白鷹町の作曲家です。それは地域の誇りです。一方、その才能を戦争で断たれてしまったことは、惜しんでも惜しみ切れないことでもあります。その音楽を味わい、後世に伝えることは、この町に住む私たちの義務であり、戦争の悲劇をもう一度胸に刻む良い機会になると考えています。

今日は、紺野が残した愛用のヴァイオリンとギターの演奏で、紺野の音楽の一部と他の様々な音楽を楽しんでいただき、戦没作曲家・紺野陽吉という存在を皆さんに知っていただくコンサートにしたいと思います。

2024年10月

白鷹学講座／スクールコンサートの会